

令和5年8月17日

所 属	情報指令課
所属長	西山 善規
電 話	06-6481-3968

令和5年上半期火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和5年上半期中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和5年1月1日（日）～令和5年6月30日（金）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和5年上半期火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり

以 上

令和5年上半期火災概要

火災の発生状況

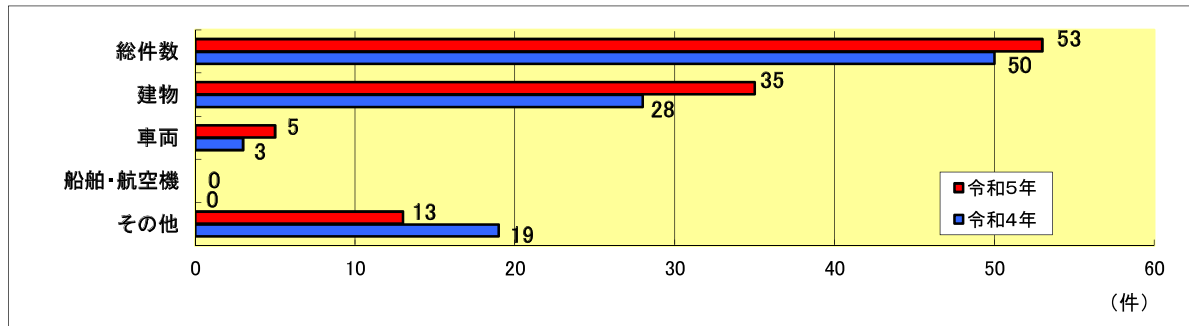
- 令和5年上半期の火災件数は53件で、焼損床面積は251㎡、損害額は2,731万3千円、死者2名、負傷者6名となりました。

令和5年	
件数	53件
焼損床面積	251㎡
損害額	2,731万3千円
死者	2名
負傷者	6名

令和4年	
件数	50件
焼損床面積	578㎡
損害額	5,407万9千円
死者	1名
負傷者	9名

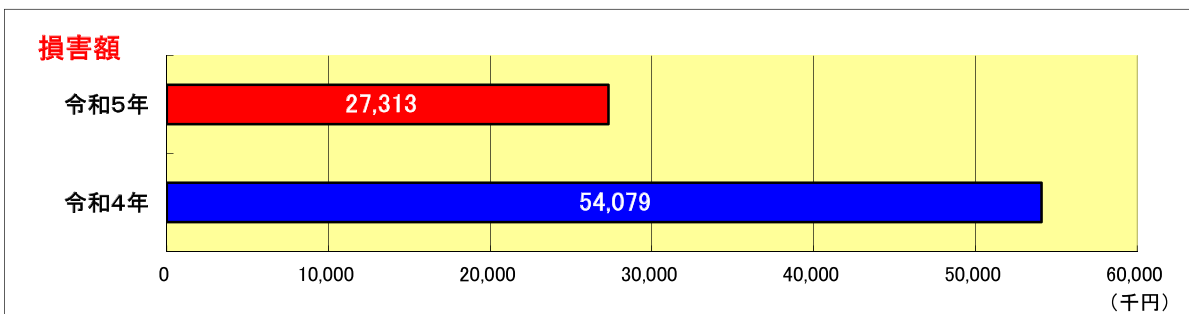
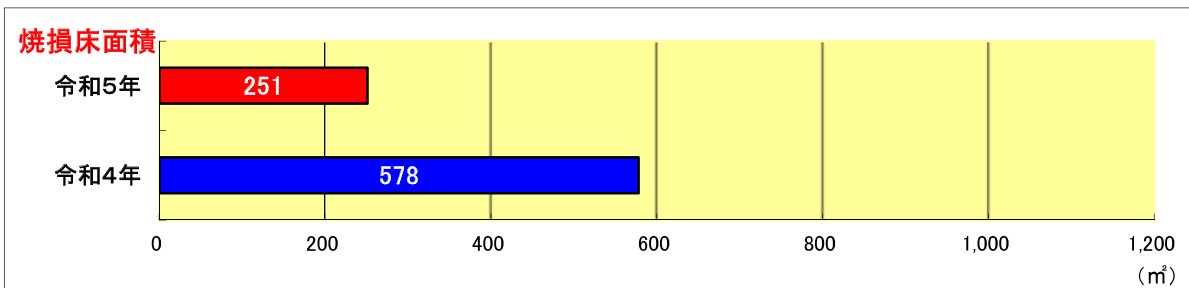
出火件数

- 出火件数は、前年の50件から3件増加し、53件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が35件で7件増加、「車両火災」が5件で2件増加、船舶火災、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が13件で6件減少しました。



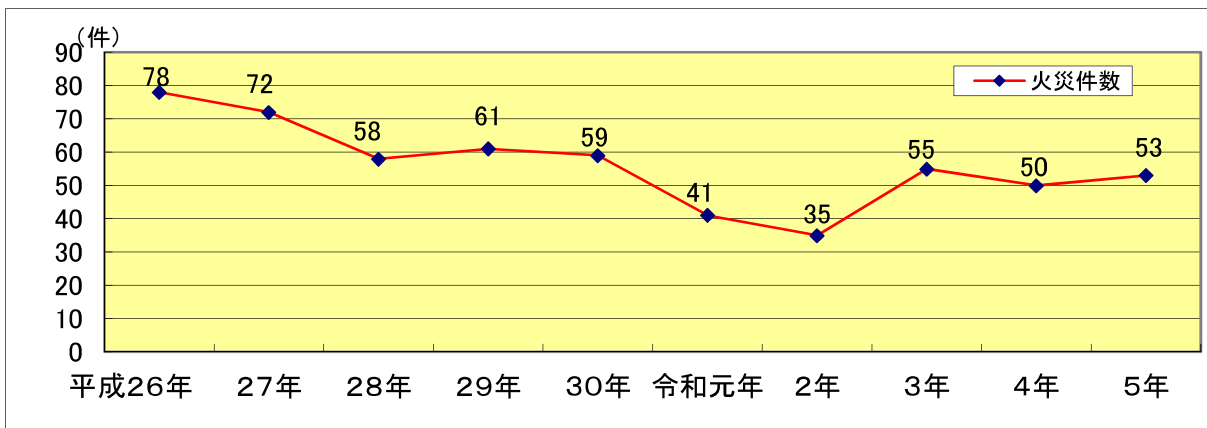
焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の578㎡から327㎡減少の251㎡、損害額は、前年の5,407万9千円から2,676万6千円減少の2,731万3千円となりました。



火災件数の推移

- 令和5年は53件で、前年より3件の増加となりました。
- 過去10年間の平均は56.2件です。

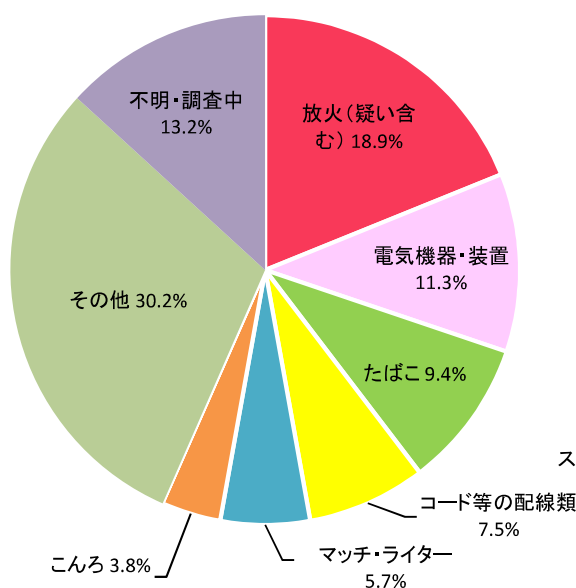


出火原因

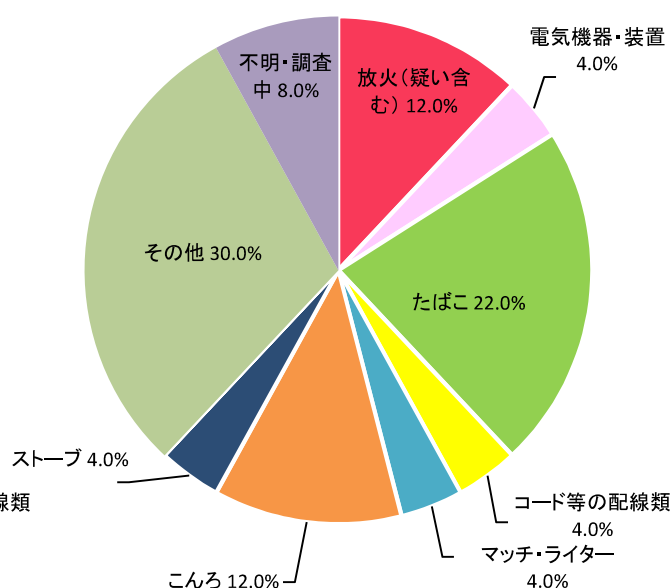
- 主な出火原因をみると、1位は「放火(疑い含む)」の10件で、前年より4件増加となりました。2位は「電気機器・装置」の6件で4件の増加。3位は「たばこ」の5件で6件の減少となりました。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「放火(疑い含む)」、「電気機器・装置」、「たばこ」となり、合計件数は21件で、割合は39.6%となりました。

区分	令和5年	令和4年
放火(疑い含む)	10件	6件
電気機器・装置	6件	2件
たばこ	5件	11件
コード等の配線類	4件	2件
マッチ・ライター	3件	2件
こんろ	2件	6件
ストーブ	0件	2件
火遊び	0件	0件
その他	16件	15件
不明・調査中	7件	4件
合計	53件	50件

令和5年



令和4年



※ 四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は18件で、前年の17件から1件の増加となっています。
- 令和5年の出火件数53件に占める住宅火災の割合は、34.0%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとしては、「たばこ」であり、住宅火災全体に占める割合は16.7%となりました。

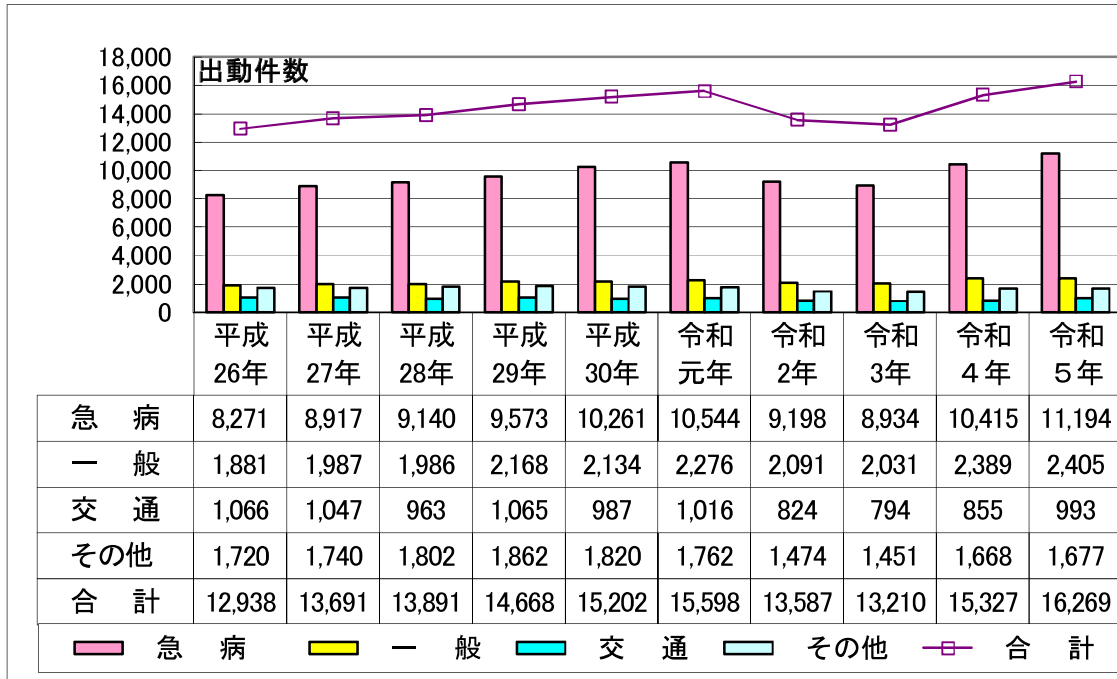
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明・調査中
一般住宅	令和5年	8		1			2		1	2	1	1
	令和4年	8		2	2		1	1	1	1		
併用住宅	令和5年	1										1
	令和4年											
共同住宅	令和5年	9	2	2	1						1	3
	令和4年	9	1	2	3		1	1				1
合計	令和5年	18	2	3	1		2		1	2	2	5
	令和4年	17	1	4	5		2	2	1	1		1

令和5年上半期救急概要

令和5年上半期（1月～6月）における救急出動件数は、16,269件（前年15,327件）で942件（6.1%）の増加となり、搬送人員は、13,485人（前年12,462人）で1,023人（8.2%）の増加となっています。1日平均は、90件（前年85件）で約16分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

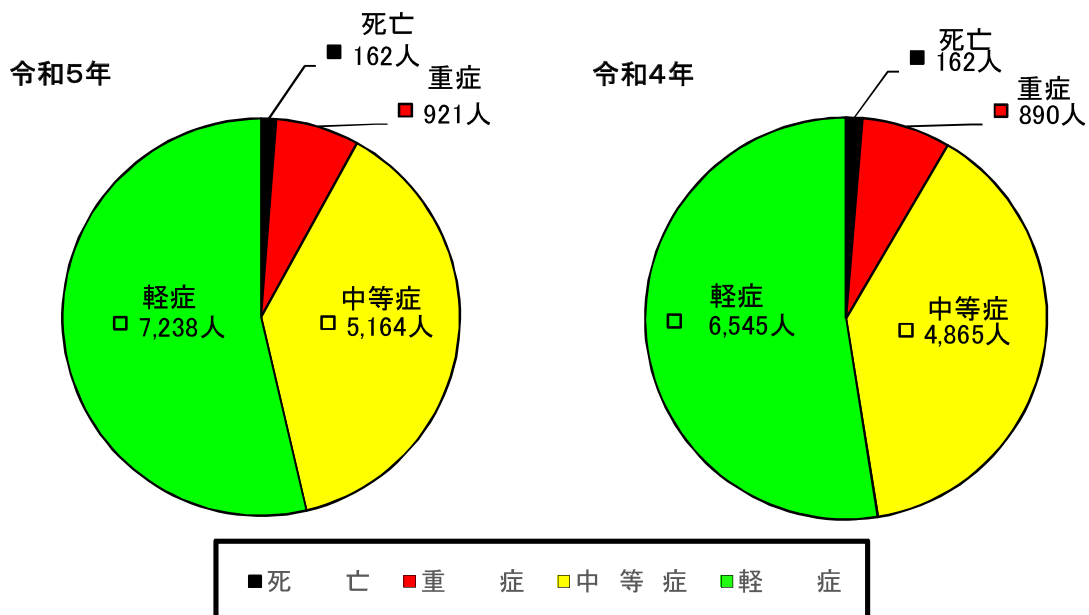
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、令和元年までは毎年増加、令和2年からは2年連続で減少に転じたが、令和4年以降は増加となっています。



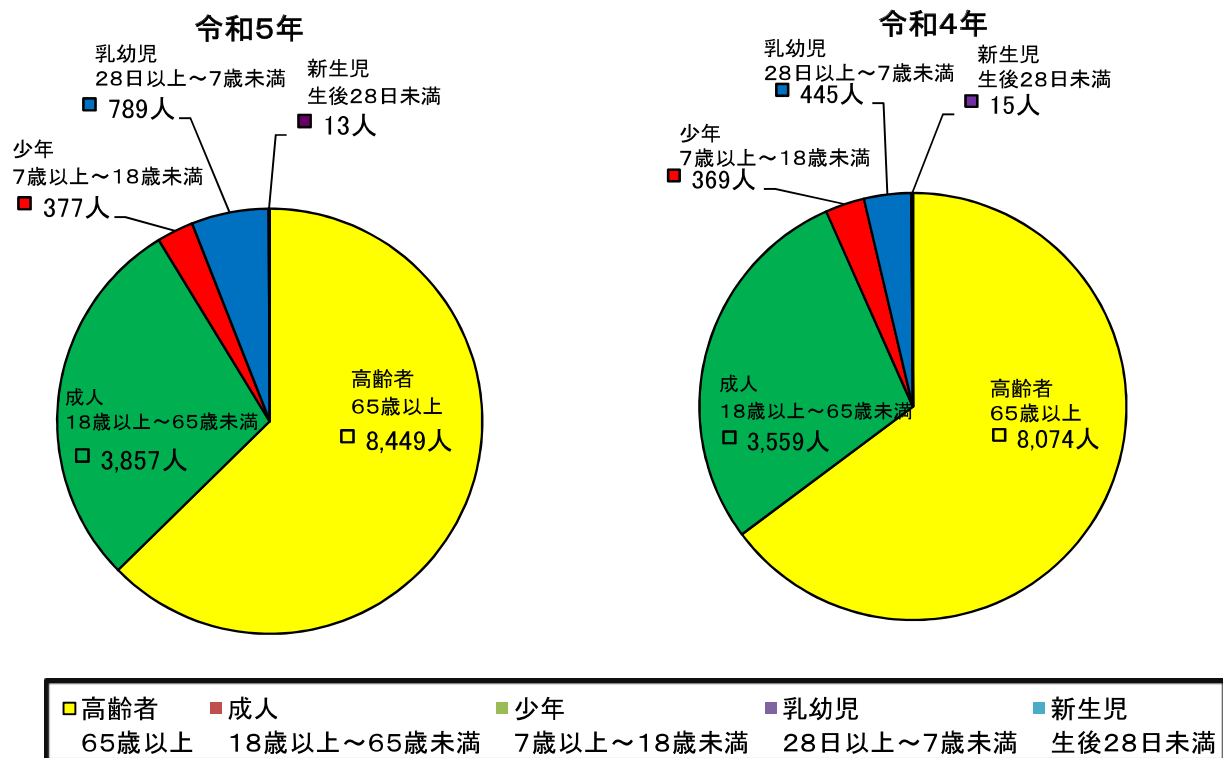
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症7,238人（前年6,545人）で693人（10.6%）の増加、中等症5,164人（前年4,865人）で299人（6.1%）の増加、重症921人（前年890人）で31人（3.5%）の増加、死亡162人（前年162人）となっています。



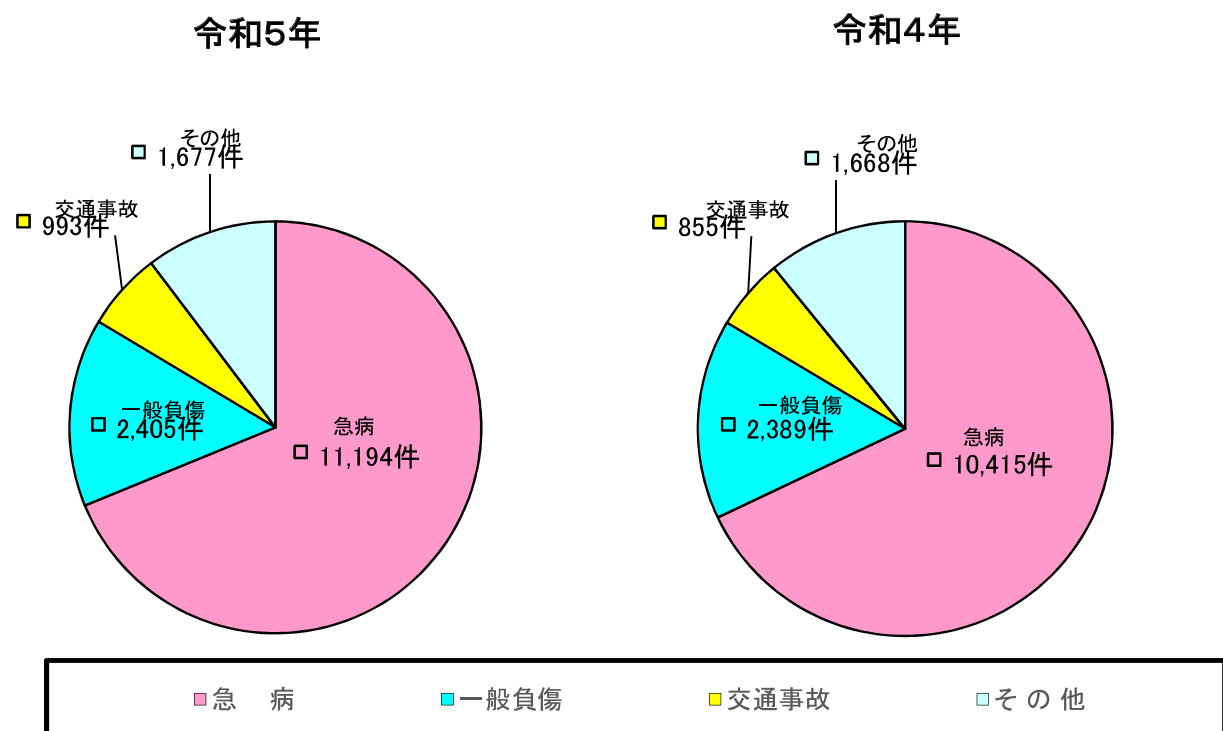
年齢区分別

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が8,449人で最も多く、全体の62.7%を占めており、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順となっています。



事故種別

- 出動件数を事故種別で見ると、急病が11,194件で最も多く、全体の68.8%を占めており、以下、一般負傷、交通事故の順となっています。



令和5年上半期救助概要

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和5年上半期の救助件数は352件（前年340件）で12件（3.5%）増加し、出動隊数は567隊（前年591隊）で24隊（4.1%）の減少となっており、事故別にみると建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数352件のうち225件（63.9%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

